

## 第2回新発田駅前複合施設管理運営図書館専門委員会概要

日時 平成26年9月19日(金)  
14時30分～16時30分  
場所 図書館3階会議室

**参加者団体**

市からは、新発田駅前複合施設建設室と市立図書館職員計6人が参加、専門委員として15団体15人から参加をいただいた。

専門委員の構成団体は、近年図書館と共同で事業実施を行っている17団体で、構成団体名は次のとおり。

新発田市立図書館協議会

新発田市立図書館後援会

無門会

指人形カップ

おはなしぱたぼん

おはなしのとびら

小さな絵本の読み聞かせ アイリス

陽塾0254

新発田市立図書館利用者友の会

新発田市の図書館を考える会

新発田郷土研究会 (欠席)

新発田古文書解読研修会

新発田市立図書館豊浦分館

新発田市立図書館紫雲寺分館

新発田市立図書館加治川分館

新発田市立図書館五十公野分館

新発田市立図書館川東分館 (欠席)

—委員会概要—

**新発田駅前複合施設における図書館の管理運営方針等について**

委員 新潟市ではボランティアルームやロッカーなどが団体ごとにある。とても良いので、可能であればそのようになっていると良い。

事務局 要望としてお伺いする。

委員 お話の部屋について、独立した部屋になっていたのが、可動式になった。専門の部屋は、教育委員会にもお願いしていた。材質は防音に配慮したものか。

事務局 各部署の意見を反映した結果このようになった。壁の材質は防音に配慮したものである。大人数でも対応可能となることを考えてのことである。

委員 静かなる中で読み聞かせしたい。それは非常に大事なこと。塩尻市市民交流センター一長さんの話の中で、融合と複合があった。塩尻の良い例があるので、より良くするため、していくために、どうしていくかという意見を大切に、これからのことに配慮して欲しい。

事務局 要望としてお伺いする。

委員 読み聞かせは図書館にとっても大切な機能だと思うので、もう一度考えて欲しい。

事務局 意見、要望としてお伺いさせていただく。運用の仕方などで検討の余地があると思う。そこで考えていただきたい。

委員 1階、2階と、使い方を含め、別にできるかどうか、空調の別稼働はできるのか。

事務局 空調、照明ともフロアごとのオンオフは可能な仕様となっている。

委員 それなら、1階はある程度遅くまで開けるのもやむを得ない。2、3階は従来どおりで良いと思う。例えば金曜はもう少し遅くなど、検討してはと考える。

委員 分館は21時30分まで開館している。駅前では、色々な方が来る。1階は子どもたちの居場所対策もあると思う。そういったことも考えて欲しい。安全対策も重要。図書館も他の市の施設と同じように開けることを要望する。

事務局 せっかくいただいた意見、検討させていただく。

委員 時間をどう考えると聞くのではなく、市民ニーズ、要望はどうあったかを把握してからにして欲しい。市民の意見を調べてからという問題では。

事務局 皆様からの御要望は、第1回図書館専門委員会の当日資料を、事務局から配布させていただいた。図書館本館、図書館分館7か所、親子プレイルーム2か所、地域子育て支援センター6か所、計16か所に置いた提案箱での御意見が116件、御意見を全て掲

載させていただいている。2つ目は、当日資料3で、高校生のアンケート結果等を載せている。

委員 その結果から市はどのように考えているか。

事務局 この専門委員会と、ワークショップの2つがあり、その意見と要望をまとめ、庁内で押し上げていって検討している。事務局が提示したものは、現状と協議資料であり、委員から御意見をいただきたい。

委員 開館時間について、会員の市内勤労者が、だいたい月に1回金曜日の19時30分から22時30分まで3時間の勉強会を開き、企業の会議室を利用している。資料3のように、新発田市の一般的な貸し施設は21時30分まで。22時30分終了をカバーできる施設が無く、民間の施設を借りなければいけない。3時間から4時間近くなることもあり、遅くまで働いている勤労者は、市の施設を使うことができない。あおり館、生涯学習センターでも、立地上や予算の問題で長くはできないとの回答があり、せめて1か所くらいは、長く使える施設を是非希望したい。

新発田市の大通りは、夜になると一斉に照明が消え真っ暗になる。開いているお店は飲食店が数件で、下町まで歩こうとすると、とても怖い。あそこに一つ開いているという安心感だけでも全然違う。1階だけでも構わない、夜遅くまで開館して欲しい。

市民の多くは意見箱が設置されていることも知らなかった。広報掲載以外にも、意見収集で市民を巻き込んでいけるような、市全体で盛り上がっていけるような広報の手段を、今後は是非市に考えて欲しい。

委員 内容を検討しないで、開館時間を決めていくことは、非常に難しい。新しい図書館には、職員体制の充実というものを望んでいきたい。職員への負担が増えてくると思う。カウンターを開ける時間で考えると、予約を受けたものを1階に準備するなど、体制を含めて内容とペアで考えていかなければならないと思う。

事務局 専門委員会で意見をいただき、決定する部門にきちんと意見を伝えさせていただく。意見のとおりには必ずしもならず、別な決定になるかもしれないが、意見が決定部門に伝わってなかったということがないようにしたい。

事務局 職員が仕事をしながら生活していくことの大切さも意見の中に出ている。塩尻市のセンター長が、職員を採用する時に8時まで勤められる人が果たしているのかと、質問を投げかけていた。夜7時くらいがぎりぎりである。民間委託をしたときに夜8時くらいまでという話もあったが、まず夜7時から実施した。多くのことを実施するには、それに添った職員募集を考えていかなければならない。つまり人件費がかかる。それも市民の方

の負担となる。長い時間の必要性等をこの委員会で議論していただきたい。

委員 市の職員の勤務体制について、始業と終業を一律に合わせなくてはいけないものだと、あまり思えない。柔軟な勤務時間での働き方は、民間では普通に実施しており、そのような勤務体制があっても良いと思う。

委員 職員の勤務時間ではなくて、質的にそれが対応できるかどうかである。本を貸し、返却を処理して書棚に戻すという作業だけでなく、レファレンスから分館支援、中央図書館という意味合いまで持つ。それに対応できるような質的サービスを、単に時間を延長するだけでなく、そのサービスと合わせて考えていかなければならない。いろんな要望があるが、図書館本来の意味から考えて、単にカウンターが開いていれば良いということではない。新しい図書館には、30年50年と続く素晴らしい図書館になってもらうためにも、職員の質的な保証も考えて、人件費の問題だけではなく、内容的なサービスの部分で充実させてもらうためにも、いたずらに窓口だけを開けておけば良いというものではない。

委員 時間帯によって利用者が図書館に望むことは変わってくる。利用時間帯によって利用者の層が違うのと同じように、その時間に利用者が何を望むのかというのは少し違う。図書館の機能よりも、勉強する場、会議の場が欲しいということもある。利用時間帯に合った複合施設の機能、これも市民の声を聞いていかななくてはいけない部分だと思う。

委員長 特定の施設について、時間延長もあってしかるべきだと理解して良いか。

事務局 読書会を図書館でやるとして、部屋だけではなく、勉強会をすると、すぐそこで図書館の本を使って調べられると、そういうようなメリットもあるとお考えか。

事務局 図書館の部屋を使うだけではなく、本を使って調べることができる。いわゆるつながりという付加価値が出てくるなどの意見として提示していただけるとありがたい。

委員 資料3では、全部で図書館が13館あるが、そのうち20時以降まで開いているところが10か所ある。20時以降に開いている図書館について市で調査しているか。

事務局 視察結果からお伝えすると、東京で遅い時間まで開けているところは、窓口はほとんど業者の対応となっている。職員のシフトや、人員確保の関係など、かなり困難があるようだ。開館時間が長くなると、正職員はもちろんだが、パート職員や嘱託職員を含め色々な課題があり、シフト上の調整は、今まで以上に困難だと考える。しかし、市民ニーズが長時間の開館であれば、それを含めて検討していくのが私どもの仕事である。きちんと御要望としてお聞きして検討していきたい。

委員 図書館に何をしに行くとかということではない。抽象的な言い方だが、図書館の風に吹かれないとか、ハイソサエティになった気分とか、そういう気分がすごく好きである。図書館に立ち寄った時には、また来てみようと思ふ。本がある、本と繋がる、具体的に読むということよりも、図書館と繋がっていることが、私には嬉しい体験である。全然違う世界に出入りできることが、すごく嬉しかったり、楽しかったりと、きっと同じ年代で仕事に振り回されている女性の中には、そういう人が大勢いると思ふ。

委員 この前のワークショップを傍聴し、開館時間はあんまり延ばさない方がよいという意見と、できるだけ延ばすべきだという意見が、拮抗しているというイメージを持った。その内容を理解して、私たちは専門委員なので、どんな要望があるのかということをもとめ上げて、運営上それが可能なのか、どのような工夫ができるのかを、ぎりぎりのところで、できる限りの機能を果たすということにしなければ、長く評価されるものにはならないと思ふ。開館時間だけでなく、休館日も関連する問題で、一緒に討議した方がよいと思ふ。月曜日に休みを持っている職業の方は月曜日休館に固定されてしまうと、図書館が全く使えないということがある。市民の権利としては不平等な状態であり、その問題は解決しなくてはならない。アクセスしたい人間がアクセスできないのはやはり問題がある。

休館日をなくすと、蔵書点検を含めメンテナンス等の問題が出てきて、運営上問題がある。運営上どんな問題があつて、そのサービスをするコストがどのくらいかかるということはある程度把握した上で意見が出せれば、一番建設的な話し合いになるのではないかと。

休館日と重なるというのは、夜遅くまで開くことになれば、休館日にあまり気を使う必要がなくなると思ふ。仕事の時間で、朝から10時まで縛られる日が毎日続くのは考えづらい。休館日を固定するのであれば、夜ある程度遅くまで開かれる日を確保するというのも必要ではないか。これから新しく図書館を使う人があれば、利用者が増える。今まで使えなかったような人たちも使えるようになって、便利な図書館になる。目標を持った上で可能な提案を絞っていけば一番良いのではないかと思ふ。

レファレンスというのは専門的な能力がないとできない。でも、貸出業務は委託でもできるというように、段階的にやれば知恵を出せる。サービスは向上できるような気がする。

委員 開館時間、あるいは休館日については弾力的な運用は可能か。

委員 最初から皆さんで納得した姿で出した方がほうがよいと思ふ。

委員 初めが肝心ではあるが、今この場できっちり決めることになるのと、かなり時間が苦しいのと、検討しなければならない課題がある。

委員長 事務局側としては、取り上げる部分もあるし、至難な部分もある。皆さんの貴重な御意見を十分踏まえながら対応していきたいということによろしいか。

委員 1階部分については夜9時頃まで開くとしてはどうか。高校では生徒に用がない場合は9時までに帰宅する指導があるようだ。いたずらに遅くまで開けることは、学校の教育方針にも反することだと思う。2階3階については従来の閉館時間とし、週に1回だけ全館開けるなど、弾力的な運用とすることが良いと思う。

毎週月曜日に休館日を固定すると、月曜日が休みの方たちは使えない弊害もある。新潟市立図書館では、休館日をずらしている。皆が利用できるという観点から言えば、そういう形も考えた方が良いと思う。新発田の場合、夜、歩いている人は少ない。遅くまで全館開けて、それだけの効果があるかは、非常に疑問である。その上で開館後市民の要望があった段階で、職員の充実も含めて検討していくという形が良いと考える。

委員長 事務局で整理をして、どのように対応できるのか、十分に検討をいただきたい。

委員 市民参加について、ボランティアで、畑など園芸関係の方たちに協力していただく方法があると思う。書架の整理のボランティアを募るなどの方法もある。

委員 専門委員会は、事務局からの案を私たちが検討して意見を出していくという位置付けだと思っており、特に施設管理については、案があれば、考え易く、意見も出し易い。市のたたき台があれば、加えるものなど検討しやすいのではないかと。

事務局 特に図書館が貸し施設をするということはないが、皆さんから御意見があればいただきたいと思う。飲食について、現状は、図書館内は不可という形にしている。貴重な資料が濡れてしまうことがあるからである。特に古文書資料などの場合は、手を洗っていただいて、脇にお茶などを置いたり、飲んだりしないようにしている。

以前は事務室や休憩室を使っていた。現在はエントランスホールにソファを置いて食べていただいている。この図書館ができて30年経つが、当初は飲食をするスペースは考えていなかった。利用者や皆さんの御意見の中で現在対応している状況である。

委員 貸し施設は、これまでの意見の中で1時間単位の利用で借りられれば良いというのはあった。休憩コーナーで飲食ができなくても良いのではないかと。ここにはカフェというのがあり、民間棟の中には飲食関係があるので、特に必要はないと思う。

委員 1階の多目的ホールについて、中学・高校生の定期試験の間だけは優先的な形で学習室として対応できるようにしていただきたい。1階にカフェ施設があるが、1階までわざわざペットボトルを買いに行ったりするのではなく、豊栄の図書館は洗面所の近くに水飲み場があるので、あのような対応があると嬉しい。

事務局 現状では、2階のトイレ前のところにウォータークーラーを設置している。児童

室では、低い洗面台のところにコップを置いて、水道水を飲めるような現状である。

委員 図書館全体についての考え方や、どのような図書館を目指すかというものがあれば、もう少し融通を利かすとか、休館日について、新発田の暮らしをみると月に2回くらいチェンジすると良いなど、具体的な話ができると思う。新しく図書館ができるというのが良いチャンスであり、図書館としてはこういう基本計画を策定するというものがあれば、そこで初めて具体的な話ができると思う。県立図書館から指導をいただきながら一緒に考えてもらうなど、そのような場が先にあった方が、私たちも意見を出しやすいと思う。

委員 民間委託等の話があり、非常に興味を覚えた。休館日や夜の開館もかなり柔軟にできるのではないかと思う。民間の活力を利用することも是非考えておく必要がある。

委員 事務局案は月曜日（月曜祝日の場合は翌日）が休館日になっている。時間の単位ではこれで良いと思うが、同じような施設として地域交流センター、学習センター、中央公民館、文化会館、色々ある。キッチンスタジオについては稼働率を上げるため是非とも料理関係の講座、イベントを企画してもらいたい。運営する業者に入ってもらい、積極的に市民に対して食のイベント関係の事業を実施していただきたい。飲食はカフェコーナーを中心に可で良いと思う。複合施設で、図書館がメインなので、全体を通して音に注意し、音の出ず区域、出さない区域を分けて管理をしていただきたいと思う。

委員 紫雲寺地区公民館では、貸し施設のルールということで午前、午後、夜間と分けている。夜間は5時半からで、夜間の予約を入れている団体が多くある。しかし夜間で予約しているが、実際は7時以降しか使わないという場合がある。利用する側としては、1時間単位にして、使った時間だけお金を払うというのが良いのではないか。

委員 加治川地区公民館でも紫雲寺地区公民館と同じように午前、午後、夜間、①②③の区分で貸し出しを行っている。確かに同じようなことがあり、余分に使用料をいただいているような感じになっているが、団体の中には1時間くらい早く着いたので中に入れてくださいというようなこともある。他の施設の例なども参考にしながら、時間単位が良いのか半日単位の区分が良いのか、検討していくのが良いと思う。

公民館の中に加治川分館の図書館がある。公民館を利用した方が図書館の本も借りていくということがあるので、駅前複合施設のキッチンスタジオを利用した方が、食べ終わって料理の本を見ていくとなった時、借りられないのはちょっと残念という気がする。

委員 五十公野分館は、ボランティアで図書館の運営を行っている。月曜日にしか借りることができない人がおり、同じ市のサービスを受けることとして、大事に考えなければならぬという話があった。分館からみると、本館に来られない人、足を運ぶことができない

い人、中には腰の曲がった人がいる。そういう人たちは分館の貸出を非常に楽しみにしている。複合施設も、各分館との繋がりで、新しい施設の中で何か変わったら良いと思う。そうしないと複合施設ができて自分たちには関係ないとなる。各分館には分館の悩みがあるので、その部分について、中央を大事にしていくと同時に、市全体で読書の大好きな方々をサポートし、今のシステムを大事にして、そこにプラスアルファしてもらいたい。

委員 塩尻市では5年の経過があって管理運営方針の策定に至っている。市民公募の図書館のあり方ワーキンググループが1年間で33回の会議を持って提言書をまとめている。市民による図書館基本計画策定懇話会を1年間に30回の会議と、職員の検討会を重ねて、教育委員会が塩尻市図書館基本計画を策定され、その後複合施設の建築構想がある。

基本設計、実施設計を経て複合施設の管理運営方針の策定となっている。今、管理運営方針の検討をしているが、塩尻市の場合、良い図書館を造りたいという熱意が伝わってくる。新発田の現状を比べると残念に思うが、新発田の事情や、時間的に切羽詰まっている条件を受け入れながら、前向きにこれから会議に臨んで行くので、行政側も市民との協働でやるという熱意と真剣さが私たちに届くような形で会議を運営していただきたい。

図書館基本計画について、第2回ワークショップ通信の中で、一番下に図書館のあり方について基本計画策定のための委員会の早急な設置を望むという意見がある。行政側からは、図書館の具体的な内容に関することは別途検討する機会を設けたいと考えていますと、回答している。私が傍聴した第3回ワークショップでも図書館の具体的な内容に関しては別途機会を設けると回答していた。その具体的な内容を検討する機会は、基本計画策定委員会のことか。新たな委員会を立ち上げるということか。今の段階を教えてください。

事務局 先日、歴史ある図書館に伺った。保存切れの雑誌を無料で提供するというので、50人の方が並んでおられた。1時間を過ぎた時には100人の方がリサイクルフェアに参加されていた。残念だったのは7組の子ども連れのうち、リサイクルフェアを終えて、その図書館に足を運んだ方が1組しかいなかった。また、100人のうち25人の方が一般図書館に足を運んだが、4分の3の方がそのまま帰ってしまわれた。それは歴史ある図書館の中で残念だと思っていた。

第1回ワークショップで、メンバーの方に、皆さんはこの駅前に複合施設ができた時に何をしたいかとグループワークをした。一日図書館の風に吹かれないなど、何をあなたがたはしたいか。そのためにはどうしたら良いかがテーマであった。

おにぎりころころすってんてんの絵本を読んだ後に、皆さんでおにぎりをにぎり、それを畳の部屋で日本の歴史に触れて正座をしながら食べるのはどうか。歴史ある図書館の子ども7組のうち、1組しか児童書館に行かなかったことを考えたうえで、連携できること、そのためにはどのようにしたら良いか、第1回のワークショップに問いかけてみた。

次に、前向きな発言ということでは、検討しますと言うことは簡単であると思っている。ただ本当にできるかどうかということを見ると、入札を終えた現段階で、検討しますと



いう重みが、本当にできるかということがある。この場で変更しますとか、それを実現するためにしますということは、今の段階ではどうも言えなかったということをも是非とも御理解いただきたい。

事務局 基本計画策定について、今言えることは、委員会まで立ち上げるということは考えていない。しかし、市民の皆様の意見を承ることは大事だと思っている。そのたたき台を作るために我々職員が資料収集して作り始めたという段階である。

副委員長 色々問題提起をさせていただく。せっかくの専門委員会なので、具体的などころの要望を出したい。

駐車場については、新しい施設では費用がかかるようになる可能性がある。駅前ということで、無料で開放すると通勤に使われるという問題を考えると変えにくい。そのための工夫はどうするかということをごここでアイデアを出していくと、後で後悔のない形になるのではないかと思う。

使用料について、貸し施設にしても、多目的の部屋を図書館として考えるのか違う施設として考えるのかということも考えて、お話しの部屋も使用料を取る予定なのか。同じようにキッチンスタジオや音楽室も取るのか、それとも色分けをして経費がかかってない部屋は無料で開放すべきなど、そのような意見を出した方が建設的だと思います。一律に時間あたりいくらというのが適当なのかどうか。

最近図書館ではタブレット端末、電子書籍などが出てきている。それにアクセスするのに機器を貸し出した方が良いのかということもある。費用も無料で良いのか。使用料という点では新発田市民とそれ以外は分けるべきか、そういったことも考えなくて良いのか。

委員長 大変貴重な御意見である。この専門委員会で多様な論議、意見を出すことについて、図書館側、複合施設の事務局側で十分に理解をいただいていると思う。

委員 新しい図書館の施設については、中央図書館としての機能を持って、職員の配置と分館や学校支援の関係でネットワークのシステム構築を含めた上で考えて欲しい。基本方針もそれに基づいて皆さんで話し合っ決めていく必要があると思うので、要望する。

委員 色々な提起があったが、委員からどういうものが欲しい、どういうものがいらぬという議論になるためには、基本的なものを市から提案いただいて、かつ、個人から色々な意見を拝聴したらいかがなものか。

事務局 貴重な御意見として伺いたい。あらかじめ事務局で資料をつくって議題を提示しているが、次回からももう少し具体的な例を考えていきたいと思う。

委員 お話しの部屋の件だが、可動式だと隣のキッチンスタジオの匂いとかが流れてくるのではないかと思う。不便でも匂いが流れないよう固定した壁にしたら良いと思う。

委員長 匂いの関係の御意見について、今の技術をもってすれば飛ばすことができるのではないかと思う。絶対不可能だということであれば、壁にする以外方法はないがどうか。

事務局 匂いの件については、設計業者との打ち合わせでも、真っ先に出てきた問題であり、それをクリアするというところで設計に反映をしている。御意見として伺う。

委員長 皆さんから十分御意見が出尽くしたと思う。事務局側からもきちんと答弁をいただいている。なお、次の専門委員会では、より準備を良くしていただきたい。総まとめは副委員長から願います。

副委員長 まだ具体的などころまで出来上がっていないというか、この専門委員会として、こういう要望が出たという形にはなっていないと思う。各意見を参考としていただいて、極力機能的な図書館になるように努力していただきたい。次回、投げたものに対して出てきたものに、もう1回ボールが投げられるくらいの話になれば、一番建設的になると思う。意見がたくさん出て、実りのあるものになるように願っている。

委員長 私は、図書館後援会から推薦されるという形で参加している。後援会でも、例えば駐車場あるいは交通問題、そして時間の問題の論議がされてきた。内容的には皆様から色々御意見が出たものと同じである。

事務局 私どもとしては色々な意見をお聞きかせいただけたと思う。いただいた意見をきちんと反映し、次回示して欲しいという御意見をいただいたので、次回の資料で準備させていきたいと思っている。

—連絡等—

今回は10月中に日程が組めるようにしたい。委員長、副委員長さんと御相談し、また改めて御案内を差し上げると周知し、終了。